Clinical indicators and coronary angiographic features of expansive arterial remodelling in patients with abdominal aortic aneurysms

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2019-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 遠藤, 裕久 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002271

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2049 号

Clinical indicators and coronary angiographic features of expansive arterial remodelling in patients with abdominal aortic aneurysms

（腹部大動脈瘤患者における冠動脈拡張性リモデリングの臨床的特徴）

遠藤　裕久（えんどう　ひろひさ）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、古典的定義による冠動脈拡張症と定量的指標で定義した病的な拡張性リモデリングの両者を腹部大動脈瘤患者と対照群（非大動脈瘤患者）で比較した報告である。本研究は冠動脈 3 枝全てを定量的冠動脈造影法（Quantitative coronary angiography）の手法を用いて定量的に冠動脈径を評価している。いわゆる positive remodeling が狭窄性動脈硬化病変の代償性変化によって生じることが知られており、単に動脈瘤の集団と冠動脈疾患患者を比較するのではなく、動脈硬化の危険因子をプロペンシティスコアを用いて標準化した集団と比較することで大動脈瘤と冠動脈拡張の関連をより明確に示すことが出来ている。さらに、いずれの定義による拡張性変化も大動脈瘤群で有意に高率に存在することを示し、定量的指標で定義した拡張性リモデリングは Body mass index（BMI）の上昇と炎症の指標である high-sensitivity C-reactive protein の上昇と関連していることを示した。過去の報告では血管周囲脂肪の炎症が拡張性リモデリングと関連していることが示されており、これらの報告は本研究で得られた結果と矛盾しない。さらに冠動脈径と hs-CRP 値が有意な相関を示しており、炎症と動脈の拡張性リモデリングの関連を示唆する結果も得られている。今後、抗炎症治療と大動脈や冠動脈の病的な拡張に対する治療介入の進歩が期待される。先行研究のさらなる裏付けとなり、臨床的に意義のある研究と言える。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。